



国立療養所邑久光明園

National Sanatorium Okukomyo-en



こみよたん
(イメージキャラクター)

ハンセン病を正しく理解していただくために

ハンセン病は非常に長い歴史をもつ病です。それも、激しい偏見差別の歴史です。

ハンセン病は、“らい菌”によって引き起こされる慢性の感染症です。この菌は、1873年(明治6年)ノルウェーのアルマウェル・ハンセン博士によって、多くの他の病原菌に先んじて発見されました。いまだに人工培養に成功していない細菌であり、また、末梢神経に入り込む唯一の細菌です。発病力はきわめて低く、また現在用いられている「多剤併用療法」を実施しますと、数日中に感染する力を失います。

主にハンセン病におかされる体の部位は、皮膚、末梢神経、前眼部など体表面であり、被服に覆われない部位に障害が現れやすいことも、差別偏見を助長した原因と思われます。現在も世界で報告されているだけで年間25万人ほどの新患者さんがおられます。開発途上国においても8割を超える発病者が後遺症を残すことなく治っています。しかし当園の入所者の場合、治療法発見以前・発見直後に発病されたために、重度重複後遺障害を残されました。なお、邑久光明園には現在ハンセン病の菌は存在しないことを申し添えておきます。

最後に、昔使われていた「らい(癩)」という病名には、古くからの偏見を払拭する目的で、平成8年の「らい予防法廃止法案」施行後は、菌の発見者であるハンセン博士にちなんで「ハンセン病」という呼び名が用いられることとなりました。

SINCE 1909

国立療養所邑久光明園は、全国に存在する国立13、私立1のハンセン病療養所の1つです。かつてハンセン病を患つた方々が療養生活を送っています。ハンセン病はすでに治癒して久しいことから“患者”と呼ばず“入所者”と呼んでいます。

当園の前身は、かつて大阪に有りました外島保養院になります。明治40年に成立した「癩予防二閑スル件」の中で放浪するハンセン病患者の隔離が規定されたことにより、明治42年「第三区府県立外島保養院」として大阪府西成郡川北村外島(現在の大阪市西淀川区中島)に設立されました。この保養院は、昭和9年「室戸台風」の直撃を受け壊滅し、多くの犠牲者を出しました。現地復興は不可能ということから、代替地を探したところ、昭和6年に開園した、国立療養所長島愛生園のあった岡山県邑久郡邑久町虫明の長島が選ばれ、昭和13年4月27日名称を「光明園」と改め、再興されました。

これが小さな島に国立のハンセン病療養所が二つある理由です。

入所者はハンセン病の後遺症としての重複した障害を持つ人が多く、この障害の程度により不自由者棟及び軽症者棟と呼ばれる居宅で生活しています。不自由者棟では、それぞれの人に見合った支援を受けながら日常生活を過ごしております。軽症者棟は、障害の程度の比較的ゆるやかな入所者の居宅で、看護師による訪問看護を受けています。



■園大通りの桜並木



■邑久長島大橋

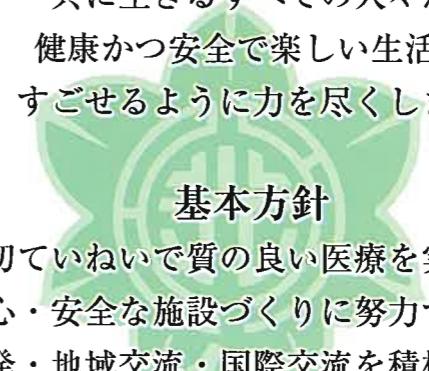
昭和63年5月9日開通。それまでは本土との最短距離22mを隔てていた海を、渡し舟で行き来していました。橋の完成が島内にもたらしたものは大きく、「人間回復の橋」と呼ばれています。架橋当時「ハンセン病は隔離が必要でなくなった証」といわれました。

Philosophy

●運営方針

理念

私たちは人間の尊厳を重んじ
共に生きるすべての人々が
健康かつ安全で楽しい生活を
すごせるように力を尽くします



- ・親切ていねいで質の良い医療を実践する
- ・安心・安全な施設づくりに努力する
- ・啓発・地域交流・国際交流を積極的に行う
- ・みんなが楽しくなる施設をめざす
- ・夢を語りあい実現に向けて共に努力する

施設概要

医療法病床数 410床
敷地 834,314m²
建物延床面積 39,763m²
診療科目 内科、外科、
整形外科、皮膚科、
眼科、耳鼻いんこう科、
歯科、麻酔科 計8科



■ふじ公園にある「風と海のなか」の碑
碑の裏面は90年の歩みの主な事柄を略年表として30項目に集約して刻まれています。(平成15年)

Characteristics • 特色

ハンセン病治療

当園は長年にわたりハンセン病に関する臨床研究に取り組み、多くの業績をあげています。全国のハンセン病療養所の中で最もよく医学的に研究され、全国に先がけて入所者の症状が鎮静化しました。

ハンセン病啓発活動

当園の行っているハンセン病に対する偏見・差別をなくす為の啓発活動は、あらためて「人権とは何か」を考えるきっかけともなり、高い評価を受けております。特に教師・医学生・看護学生を中心に研修希望者がたえません。

国際医療協力

当園でハンセン病の医療・看護を研修した多くの医師、看護師がアジア各地でハンセン病制圧のために活躍してきました。また、アジア各国からの研修生も受け入れており、当園職員との交流も盛んに行われています。

医療・看護及び介護

医療は入所者の高齢化による生活習慣病対策が主で、最近では認知症に対する予防や治療も大きなウエイトを占めてきました。病棟、老人センター及びユニットケアを有する若草棟の「なごみ」では、高齢化やハンセン病後遺症による各種合併症を持つ入所者の医療と看護を行っています。

不自由者棟は多くの建物がつながったセンター3つで構成されており、それぞれに看護師、介護員（看護助手）を配置し、看護及び日常の療養生活支援を行っています。外来は軽症者棟及び不自由者棟入所者を対象に、医療・看護を行っています。また、健康管理室を設置し、保健指導や軽症者の訪問看護などを行っています。



■病棟カンファレンス



■地元小学生との交流



■医療安全研修会



■納涼夏祭り

園内中央広場で行われ、入所者、職員及びボランティアの人達による多くの夜店や歌と花火など、夏の夜を彩る最大のイベントとして、地域の人たちにも親しまれています。



Hospital Life • 療養生活

入所者の自治会活動

施設と入所者のパイプ役となり、入所者の生活環境等の向上のための活動を行っており、わが国のハンセン病施設の中で最も歴史と伝統のある自治会です。



■総合展示会

文芸関係

“楓”（入所者作品等の機関誌），“白杖”（盲人会誌）が定期的に発行されています。評論、随筆、詩、俳句、短歌、川柳、及び園内の行事等が掲載され、園内はもとより広く一般にも愛読されています。

趣味

カラオケ、手芸、盆栽、陶芸、写真、書道のクラブがあって、活発な活動が行われています。

毎年11月の総合展示会には、入所者及び職員の作品がこうみょう会館等に展示され、多くの方が来園されます。

宗教

入所者の信仰は自由であり、各宗派の建物が納骨堂を囲むように設置されています。宗派毎、定期的に行事が行われています。



■カラオケ大会

History • 沿革

- (1907) 明治40年 3月19日 法律第11号「癩予防ニ関スル件」公布
 (1909) 明治42年 4月 1日 大阪府主管による「第三区府県立外島保養院」として、大阪府西成郡川北村外島に開院（京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・三重・福井・石川・富山・滋賀・岐阜・鳥取の2府10県、収容定員300名）
 (1918) 大正 7年 入院者による自治組織が発足、入院者自治制の第一歩となる
 (1931) 昭和 6年 4月 2日 「癩予防法」制定
 1,000名収容の施設完成を目前にして、室戸台風の風水害により外島保養院は壊滅し、入所者173名、職員3名、職員家族11名及び施設拡張工事関係者9名が死亡、生存者416名、6施設に分散委託
 (1934) 昭和 9年 9月21日 復興の地を岡山県邑久郡裳掛村大字虫明長島に決定
 (1935) 昭和10年 8月 6日 名称を「光明園」と改め開園、復興まで他の施設に委託されていた入所者順次帰園
 (1941) 昭和16年 7月 1日 国に移管され、名称を「邑久光明園」と改称
 (1948) 昭和23年11月 プロミンの使用開始
 (1953) 昭和28年 8月15日 「らい予防法」制定
 (1988) 昭和63年 5月 9日 邑久長島大橋（人間回復の橋）開通
 (1996) 平成 8年 4月 1日 「らい予防法」廃止、「らい予防法の廃止に関する法律」施行
 (1998) 平成10年 7月31日 「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」提訴
 (2001) 平成13年 5月11日 原告勝訴の熊本地裁判決・政府の控訴断念（5月25日）
 (2005) 平成17年 3月 1日 ハンセン病問題に関する検証会議・最終報告書提出
 平成17年10月23日 天皇・皇后両陛下による行幸啓の実現
 (2006) 平成18年10月 3日 園内に残されていた胎児等「告別式」「合同慰靈祭」挙行
 (2009) 平成21年 4月 1日 「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」施行
 平成21年 6月19日 「国立療養所邑久光明園創立100周年式典」挙行
 (2010) 平成22年11月 1日 神戸大学大学院人間発達環境学研究科と包括的な事業連携に係る協定を締結
 (2011) 平成23年 3月 ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会岡山により邑久光明園将来構想を策定
 (2016) 平成28年 2月 1日 特別養護老人ホーム「せとの夢」オープン
 平成28年10月17日 社会交流会館オープン



■社会交流会館(資料展示室)
社会交流会館は、邑久光明園や入所者と地域社会との交流機会を創出することを目的とした施設です。
資料展示室には、邑久光明園の歴史に関する貴重な資料を保存し公開しています。
邑久光明園の歴史からハンセン病問題にふれていただき、私たちの社会が一人ひとりの人権が尊重される社会へと成長していく一助になればと願っています。



■納骨堂
開園以来3190柱を超える御靈が祀られています。

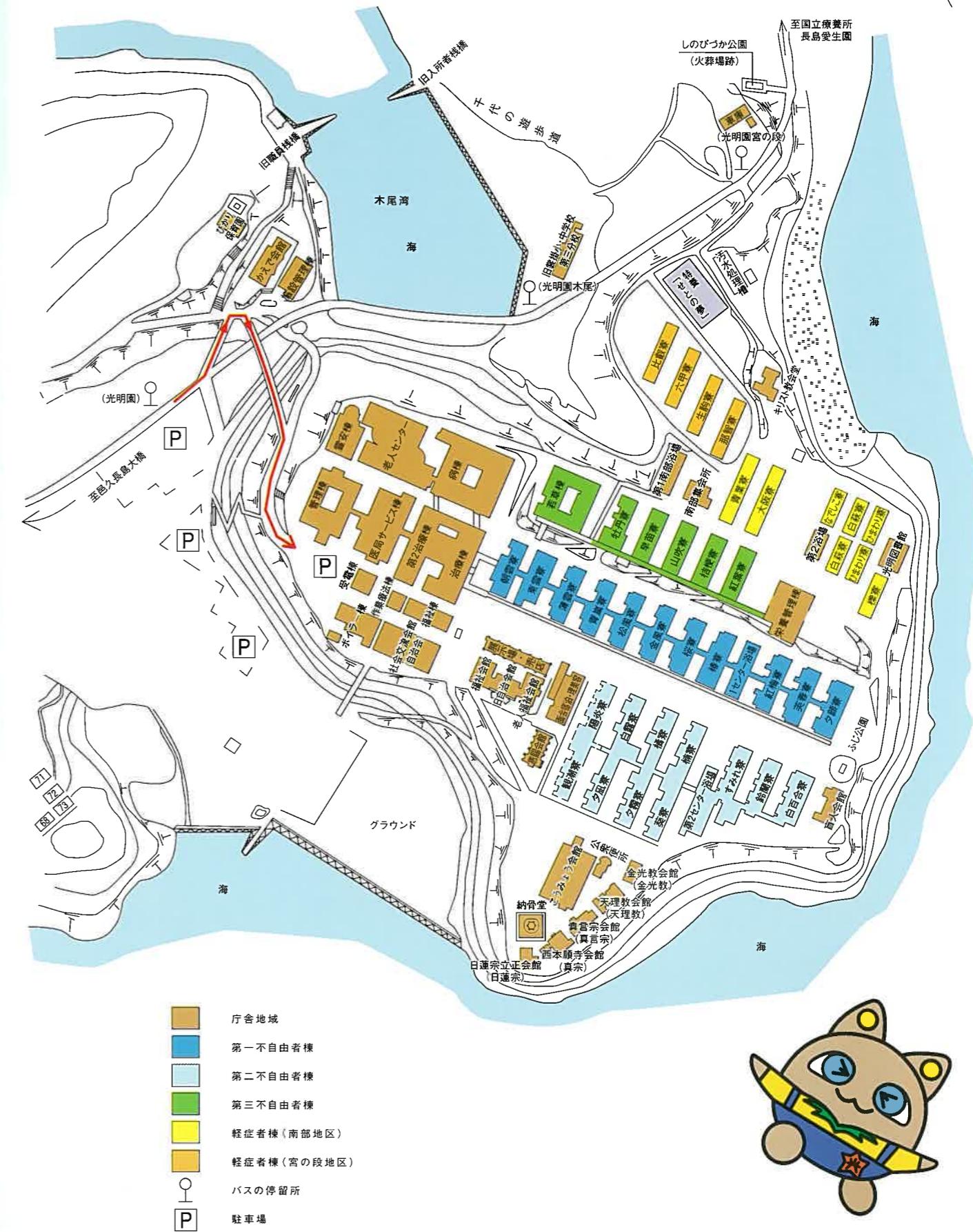


■しのびづか公園
一般的火葬場を使用させてもらえたかった時代の火葬場跡。胎児等慰靈の碑には、人間不在、患者撲滅のハンセン病施策により、人工妊娠中絶等でこの世に生を受けることができなかつた胎児のうち、遺族や母親の元にももどれなかつた45体の胎児等のご遺骨が納められ、ここに合祀されています。



■監禁室
園長に絶大な権力が与えられ、園内秩序維持の目的で建てられ昭和28年頃まで使用されました。

Layout • 配置図





交通案内

- 国道2号線接続の岡山ブルーライン虫明ICを降りてすぐ右折。その後は標識(邑久長島大橋)に従って進み、邑久長島大橋を渡れば、まもなく当園(虫明ICより約5分)
- JR岡山駅下車、赤穂線乗り換え邑久駅下車、当園までタクシー20分
バス利用の場合は、邑久駅より東備バスで愛生園行に乗り「光明園(こうみょうえん)」で下車
(ただし、バスは平日：朝2便、土日祝：朝1便・昼から2便しかないので注意)

国立療養所邑久光明園

〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253

TEL.0869-25-0011(代) FAX.0869-25-1763

ホームページ http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/hansen/komyo